

資料

- ① 構成メンバー
- ② 研究プロジェクト一覧
- ③ 協力研究者一覧
- ④ 国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧
- ⑤ 2018 年度新規収蔵図書・資料
- ⑥ 史料電子化プロジェクト電子化イベント一覧
- ⑦ 国立大学法人お茶の水女子大学
ジェンダー研究所規則
- ⑧ 国立大学法人お茶の水女子大学
特別招聘教授に関する規則
- ⑨ 『ジェンダー研究』 編集方針・
投稿規程
- ⑩ ジェンダー研究所ウェブサイト
プライバシー・ポリシー

【資料】①構成メンバー

【所長】

石井ケンツ昌子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

《任期》

2015(H27)年10月1日～2020年3月31日

【専任教員】

申琪榮(ジェンダー研究所准教授)

2015(H27)年4月1日～

大橋史恵(ジェンダー研究所准教授)

2018(H30)年9月1日～

【研究員】

小玉亮子(基幹研究院人間科学系・生活科学部教授)

2017(H29)年4月1日～2019(H31)年3月31日

棚橋訓(基幹研究院人間科学系・文教育学部教授)

2017(H29)年4月1日～2019(H31)年3月31日

斎藤悦子(基幹研究院人間科学系・生活科学部准教授)

2017(H29)年4月1日～2019(H31)年3月31日

【特別招聘教授】

ジャン・バーズレイ(ノースカロライナ大学チャペルヒル校・教授)

2018(H30)年8月2日～2019(R元)年7月31日

デルフィーヌ・ガルディ(ジュネーブ大学・教授)

2018(H30)年12月1日～2019(H31)年1月31日

【特任講師】

板井広明

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

【特任リサーチフェロー】

仙波由加里

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

佐野潤子

2018(H30)年4月1日～2018(H30)年7月31日

大野聖良

2018(H30)年10月16日～2019(H31)年3月31日

吉原公美

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

【アカデミック・アシスタント】

梅田由紀子

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

滝美香

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

稲垣明子

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

和田容子

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

【客員研究員】

足立真理子

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日

【研究協力員】

マウラ・スティーブンス(国際交流基金フェロー/ハワイ大学(院))

2017(H29)年9月14日～2018(H30)年3月31日

平野恵子

2018(H30)年4月1日～2019(H31)年3月31日



所長 石井クンツ 昌子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野：家族社会学、ジェンダー社会学、社会心理学

所属学会 日本家族社会学会(会長)

日本学会議 連携会員／統計データアーカイブ分科会(会長)／

ウェブ調査の課題に関する検討分科会(幹事)

日本社会学会

日本家政学会家族関係部会

福井県男女共同参画審議会(会長)

National Council on Family Relations

主な業績

《著書・論文・報告書・書評》

- 2019 “Japanese Child Caring Men (*Ikumen*) and Achieving Work-Life Balance.” Meier-Gräwe, Uta, Motozawa, Miyoko and Schad-Seifert, Annette (Eds.). *Family Life in Japan and Germany: Challenges for a Gender Sensitive Family Policy*.
- 2019 『IT 社会の子育てと家族・友人関係：日本・韓国・米国・スウェーデンの国際比較から』平成 25～30 年度科学研究費補助金基盤研究（A）報告書
- 2019 多賀太『男子問題の時代？錯綜するジェンダーと教育ポリティクス』*Social Science Japan Journal*.
- 2018 藤崎宏子・池岡義孝『現代日本の家族社会学を問う—多様化のなかの対話』*社会学評論* (2018) 69(2), pp.264-266.
- 2018 「育児・家事と男性労働」『*日本労働研究雑誌*』第 699 巻 pp.27-39.
- 2018 「家族社会学研究の能動的な国際化に向けて」『*家族社会学研究*』第 30 巻 (1) pp.7-17.

《講演・報告等》

- 2019 「ワーク・ライフ・バランスってなに？～その現状と課題～」筑西市男女共同参画セミナー 1 月
- 2019 「お茶の水女子大学ジェンダー研究所：歴史・教育・研究・ネットワーク」名古屋大学ジェンダーリサーチライブラリ 1 月
- 2019 ”Gender and Leadership: A Case of Japan.” Women’s Global Leadership from Gender Perspectives. Ochanomizu University. January.
- 2019 「育児期親子の IT 活用：研究の概要と主な結果」『育児期親子の IT とソーシャルメディア活用：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較』シンポジウム 2 月
- 2019 “Caring Masculinity and Men’s Roles-A Comparison among Five East Asian Cities- East Asian Sociological Association, March.
- 2018 “Internet Use and its Effect on Families and Children: A Japan and U.S. Comparison.” National Council on Family Relations, San Diego, November.

2018 「ワーク・ライフ・バランス」福井県みらいきりりプログラム 7月

2018 「ママのための女性学」葛飾区区民大学 1月

2018 「オトナのオンナの女性学」葛飾区区民大学 10月

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 A「IT 社会の子育てと家族・友人関係：日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」、2014～2018 年度、研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 B「揺らぐ男性性」2018～2020 年度、伊藤公雄(研究代表者)



専任教員(准教授) 申 琪榮

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域(領域長)
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース(コース長)
生活科学部生活社会科学講座

専門分野: 比較政治学(東アジア)、ジェンダーと政治、フェミニズム理論、最近の研究分野は、政治分野におけるジェンダー・クォータと代表性、比較女性運動、ジェンダー主流化政策など。

所属学会等 International Political Science Association
American Political Science Association
European Consortium for Political Research
International Feminist Economics Association
日本政治学会(分野別研究会「ジェンダーと政治研究会」)
日本フェミニスト経済学会
日本社会政策学会
ソウル大学日本研究所『日本批評』海外編集委員
韓国ジェンダー政治研究所研究委員
ソウル大学 SSK (Social Science Korea) 東アジア地域秩序研究会共同研究員
日本比較政治学会(編集委員)
「女性・戦争・人権」学会
Association for Asian Studies in Asia
European Association for Japanese Studies

主な業績

《論文・共著・その他》

- 2018 “Gender, Election Campaigns and the First Female President of South Korea,” *The Journal of Gender Studies*, No. 21, pp. 71-86.
- 2018 “Introduction for the Special Section,” *The Journal of Gender Studies*, No. 21, pp. 5-8.
- 2018 “South Korean Views on Japan’s Constitutional Reform under the Abe Government,” *The Pacific Review*, Vol. 31, Issue. 2, pp. 256-266 (with EJ Cho) DOI: 10.1080/09512748.2017.1397731
- 2018 “2018 US Mid-term Election: Another Women’s Year?” *Gender Review*, 50: 64~70 (韓国語).
- 2018 제 17 장 「젠더」, 『세계정치론』 을유문화사, 366-387. Korean translation of Ch.17 “Gender,” in *The Globalization of World Politics* (eds. by John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens Oxford Univ. Press).
- 2018 「#MeToo 運動がもたらした変換」, 『女も男も』 秋・冬号 No.132, 47-52 頁
- 2019 「女性政治リーダーをどう育てるか? —政治分野における男女共同参画推進法の活かし方」, 『都市問題』110 巻 1 月号, 83~91 頁 (三浦まりと共著)
- 2019 『台湾におけるジェンダー・クォータその経験と影響分析』東アジアにおけるジェンダーと政治ブックレット シリーズ No.1 (和田容子と共編)
- 2019 「性化された権力— #MeToo 運動が明らかにしたハラスメントの実態と変革の可能性」, 『女性労働問題』 63 号, 43~65 頁
- 2019 “#MeToo in Japan and South Korea: #WeToo, #WithYou,” *Journal of Women, Politics & Policy*, 40 (1): 97-111 (with Linda Hasunuma).

《学会報告》

- 2018 “Are Women Legislators More Peace-oriented?” World Social Science Conference, Fukuoka, Japan, Sep. 25-28.
- 2018 “Gender and Power Relations in Japanese Life-Insurance Companies: From the Perspective of Interactive Service Work Triangle,” World Social Science Conference, Fukuoka, Japan, Sep. 25-28 (with Kaoru Kanai).
- 2018 “Does “Constituency Facetime” Reproduce male Dominance: Insights from Japan’s Mixed-Member Majoritarian Electoral System,” International Political Science Association, Brisbane, Australia, July 21-25 (With Mari Miura and Jackie Steele).

《招待講演・ワークショップ報告》

- 2018 「超国家的女性ネットワークと慰安婦問題の国際化」韓国外国語大学 国際シンポジウム『慰安婦問題の国際化』2018年12月9日、ソウル市
- 2018 「女性教員を増やすことの意義と方法 ―男女均等は世界の潮流―」埼玉大学 第10回男女共同参画室講演会 2018年11月8日.
- 2018 福岡県国際女性シンポジウム『Cast Your Shell 殻を破れ』コメンテータ、2018年9月8日.
- 2018 福岡市『女性のための政治スクール』講演「政治を変えるクオータ制：世界の動向・日本の動向」、福岡・女性議員を増やす会、2018年7月17日.
- 2018 福岡市「地域で男女共同参画！～広げようネットワーク」主催講演「女性議員を増やして政治を変えよう！」、2018年10月20日.
- 2018 「韓国のクオータ制度は定着したのか」釜山大学 女性研究所 30周年記念シンポジウム『政治代表性のジェンダー格差と制度』2018年9月14日 釜山市
- 2018 「MeToo から女性政治まで：社会の周辺から政治的主体へ」市民政治フォーラム(홍익표, 이정미, 진선미의원 공동대표) 2018年8月24日、ソウル市 韓国国会委員会館
- 2018 「性化する権力：#MeToo 運動が明らかにしたこと」女性労働研究会シンポジウム『#MeToo の先へ』、2018年9月9日
- 2018 「日本の家族制度：夫婦別姓と女性の名前」、韓国 Yonsei University 法科大学院特別講義 2018年1月4日
- 2018 「「トランプ時代の女性と政治」パネリスト、公益財団法人笹川平和財団、7月17日.
- 2018 「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」、韓国国会立法調査處、2018年9月6日.
- 2019 「なぜ増えた、世界の女性議員ー女性議員が増えたと何が変わる？ー」公益財団法人アジア女性交流・研究フォーラム KFAW アジア研究者ネットワークセミナー2019年2月16日、北九州市.
- 2019 「合言葉は、パ・リ・テ!!～意思決定の場を男女同数に～」埼玉県男女共同参画推進センター第17回 With You さいたま フェスティバル講演会 2019年2月3日.

《競争的資金(国内・海外)》

- ・科学研究費基盤研究B「女性の政治参画の障壁：国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査」、2018～2020年度、研究分担者
- ・韓国研究財団 一般共同研究「議会内政治的代表的性の性差に関する公式・非公式的制度要因研究：韓国、日本、台湾比較分析」、2016～2018年度、研究分担者
- ・Social Science Korea. “East Asian International Relations Theory” 研究代表者：Jae Sung Chun (Seoul National Univeristy)、2015～2018年度、研究分担者



専任教員(准教授) 大橋 史恵

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域
博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース
文教育学部グローバル文化学環

専門分野: ジェンダー研究、国際社会学、中国地域研究

所属学会等: International Association for Feminist Economics

日本社会学会

関東社会学会

日本フェミニスト経済学会(幹事会役員)

ジェンダー史学会(常任理事)

現代中国学会

主な業績

《著書・論文》

- 2018 「『寄る辺のなさ』を越える——中国の都市社会に生きる農村女性たち」、川端浩平・安藤丈将編『サイレント・マジョリティとは誰か——フィールドから学ぶ地域社会学』、ナカニシヤ出版、
- 2018 「改革・開放期のジェンダー秩序の再編——婦女連合会のネットワークに着目して——」、小浜正子編『中国ジェンダー史研究入門』、京都大学学術出版会
- 2018 「『逃げ恥』考——再生産労働は『夫婦を超えてゆけ』るか」、『女性労働研究』(68)、pp.198—205

《学会報告・講演》

- 2018 「『逃げ恥』考——再生産労働は『夫婦を超えてゆけ』るか——」、女性労働問題研究会読者会 2018、東洋大学白山キャンパス、6月2日。

《競争的資金》

- ・ 科学研究費補助金・基盤研究 B「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー——インド・フィリピン・中国の国際比較」(課題番号:17H02247) 分担研究者(研究代表者:堀芳枝)、2018 年度～2019 年度



特任講師 板井 広明

専門分野：社会思想史、経済学史、食の倫理とジェンダー

所属学会等：経済学史学会(幹事、編集委員、編集委員会事務局)
日本イギリス哲学会
社会思想史学会
政治思想学会
日本フェミニスト経済学会(幹事)
日本有機農業学会
日本経済理論学会(分野別ジェンダー分科会コアメンバー)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「リベラル・フェミニズムの再検討」(21 頁参照)
- ・ 国際教育プログラム「AIT ワークショップ」(107～113 頁参照)
- ・ 大学院講義科目「国際社会ジェンダー論」演習(119 頁参照)
- ・ IGS セミナー合評会：倉橋 耕平『歴史修正主義とサブカルチャー：90 年代保守言説のメディア文化』企画・コーディネーター・司会(57 頁参照)
- ・ IGS セミナー「近代日本のファッション文化を再考する：女性・近代化・対抗文化」企画・コーディネーター・司会(59 頁参照)
- ・ IGS セミナー「ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考」企画・コーディネーター・司会・報告(61 頁参照)
- ・ IGS セミナー「フランス啓蒙の女性論」企画・コーディネーター・司会(73 頁参照)
- ・ IGS セミナー「性同一性障害とトランスジェンダーは「水と油」か」企画・コーディネーター・司会(77 頁参照)
- ・ IGS ランチョンセミナー企画運営
- ・ IGS 運営会議陪席メンバー
- ・ ウェブサイト・SNS・メーリングリスト等による情報発信・広報(130 頁参照)
- ・ シンポジウム・セミナー・研究会ポスター作成(42～44 頁参照)
- ・ 情報機器・ネットワーク管理

主な業績

《学会報告等》

- 2018 「ベンサム功利主義における女性・結婚・両性の平等」、IGS セミナー「ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考」(お茶の水女子大学)、2018 年 10 月 1 日
- 2018 「食の倫理と有機農業：徳倫理から功利主義へ」、日本有機農業学会第 19 回大会(広島県立大学)、2018 年 12 月 9 日



特任リサーチフェロー 仙波 由加里

専門分野: 生命倫理学、バイオエシックス、ジェンダー、
生殖技術に関連する倫理的問題

所属学会等: 日本医学哲学・倫理学会(国際誌編集委員)

日本生命倫理学会(評議委員)

日本生殖看護学会

European Society of Human Reproduction and Embryology (ESHRE)

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「生殖医療とジェンダー」(24 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究」(25 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(26 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「生殖補助技術で形成される家族についての研究」(27 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「AID で生まれた人の『出自を知る権利』を保障するための教材作成に関する研究」(28 頁参照)
- ・ IGS セミナー(生殖領域)「代理出産をめぐる世界の現状～商業的代理出産から利他的代理出産へ」企画・コーディネーター・司会(63 頁参照)
- ・ IGS セミナー(生殖領域)「フランスにおける LGBT と生殖医療 および性別の表記変更」企画・コーディネーター・司会(67 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』、編集スタッフ。主に書評編集担当(122～125 頁参照)
- ・ 海外からの問合せ・訪問者対応

主な業績

《著書・論文》

- 2018 仙波由加里、「第 2 章第 2 節 生殖医療の倫理的・社会的・法的課題」「第 2 章第 3 節 第三者のかかわる生殖医療をめぐる倫理的課題」丸山マサ美編著『バイオエシックス その継承と発展』川島書店 62-70、70-76.
- 2018 仙波由加里、2018、「「正常さ」と「異常さ」の境界—「不幸な生」に関する倫理的背景に関する考察—」『医学哲学医学倫理』36、102-105

《学会報告・講演》

- 2018 依頼講演: 日本科学未来館公開セミナー『卵子提供・代理出産で家族をつくる』、講演タイトル「提供精子・提供卵子でつくられた家族—ニュージーランド・イギリスの事例から」(2018 年 5 月 12 日、日本科学未来館)
- 2018 学会報告: 第 30 回日本生命倫理学会年次大会 一般口演 V「理想的な配偶子ドナーとはどのような人か—ニュージーランドと英国でのドナーへのインタビューから—」、第 30 回日本生命倫理学会年次大会(2018 年 12 月 8 日-9 日、京都府立医科大学)
- 2018 学会座長: 第 30 回日本生命倫理学会年次大会 一般口演 VI「先端医療技術」、(2018 年 12 月 8 日-9 日、京都府立医科大学)
- 2019 シンポジウムコメンテータ: 日本大学シンポジウム『アジアのリプロダクションは今—生殖医療とジェンダー』、「生殖医療、欧米とアジアの比較」(2019 年 3 月 23 日、日本大学文理学部本館 2 階会議室 A)
- 2019 コメンテータ: 日本人口学会東日本地域プログラム『性に関する情報と実践 性教育』(2019 年 3 月 30 日、東京大学本郷キャンパス 医学部教育研究棟 13 階 第 6 セミナー室)

《競争的資金》

- ・ トヨタ財団研究助成 「生殖補助技術で形成される家族についての研究」(2017 年 5 月～2019 年 12 月末) 研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:18K00034)「諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究」(2018 年～2020 年度) 研究代表者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号:16K12111)「AID で生まれた人の『出自を知る権利』を保障するための教材作成に関する研究」、(2016 年～2018 年度、研究代表者: 清水清美(城西国際大学))、研究分担者



特任リサーチフェロー 大野 聖良

専門分野: ジェンダー研究、人身取引、女性に対する暴力、
入管体制(移民政策)とジェンダー

所属学会等: 国際ジェンダー学会(評議員・編集委員)
日本女性学会
ジェンダー法学会
日本フェミニスト経済学会
国際政治学会
日本移民学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「日比間の在留資格「興行」をめぐる言説編成の解明: 入国管理のジェンダー分析を目指して」(32 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「日比間の人の移動における支援組織の役割: 移住女性と JFC の経験に着目して」(33 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの: 聞き取りとネットワーク分析から」(34 頁参照)
- ・ 研究プロジェクト「人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷: ネットワーク再構築に向けて」(35 頁参照)
- ・ IGS セミナー「近代日本の女性の移動と再生産: 「からゆきさん」の生涯をめぐる」(75 頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』編集担当(122 頁参照)
- ・ 海外からの問合せ・訪問者対応

主な業績

《学会報告・講演》

- 2018 ONO, Sera. “Gendered immigration in Japan: ‘Entertainment Visas’ Reconsidered” in Session2 “Women’s Initiative to Policy and Practice in Empirical Studies: In Qualitative Research in the Field of Labor, Activity and Support”, at 27th International Association for Feminist Economics Annual Conference, New York, US, June 2018.
- 2018 ONO, Sera. “The Movement against “Entertainment Visas” by NGOs in the Philippines: Between Human Trafficking and Migration” in Panel Session “Three Decades of Trajectory of Research and Action for Migrant Women and Japanese-Filipino Children”, at the 4th Philippine Studies Conference in Japan, Hiroshima, Japan, November 18
- 2018 研究報告 佐々木綾子・大野聖良「日本におけるトラフィッキング概念の形成と運動の検討——アメリカとの比較から」国際ジェンダー学会 2018 年大会個人発表、聖心女子大学、2018 年 9 月。
- 2018 講演 ONO, Sera. “Human Trafficking in Japan: The Latest Trends and Protections” at NGO Maligaya House 20th year Anniversary Event “Panel discussion: Voice-out Japanese Filipino Children Youth in the Philippines and in Japan”, Quezon, the Philippines, August 2018.
- 2018 ワークショップ 「『ジャパゆきさん』とは誰か——日本の女性運動の視点から」北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター、メディア・ツーリズム研究センター、科研基盤 C「森崎和江の越境する連帯の思想」(研究代表者: 北海道大学 玄武岩准教授)主催 ワークショップ「森崎和江の越境する連帯の思想——『からゆきさん』の近代と現代」、北海道大学遠友学舎、2018 年 8 月。
- 2018 研究報告「招聘業界における在留資格「興行」の問題構成——招聘業界誌『入国ジャーナル』をてがかりに」、日本移民学会 2018 年大会自由論題、南山大学、2018 年 6 月。

《競争的資金》

- ・ 科学研究費基盤研究 B(課題番号: 17H02600)「日比間の人の移動における支援組織の役割: 移住女性と JFC の経験に着目して」、2017～2019 年度、研究分担者
- ・ 国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) (課題番号: 18KK0056)「グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの: 聞き取りとネットワーク分析から」、2018～2022 年度、研究分担者
- ・ 科学研究費基盤研究 C(課題番号: 17K04196)「人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷: ネットワーク再構築に向けて」、2017～2019 年度、研究分担者



特任リサーチフェロー 佐野 潤子

専門分野: 女性労働、家族社会学、家庭科教育、キャリアとジェンダー、
ジェンダーとジェロントロジー

所属学会: 家族社会学会

日本家政学会家族関係学部会

家庭科教育学会

生活経済学会

【担当業務】

- ・ 研究プロジェクト「働く父親・母親の複数役割満足感の要因の検討」
- ・ IGS 関連研究会「家族とキャリアを考える会」(頁参照)
- ・ 『ジェンダー研究』編集事務局(頁参照)
- ・ 海外からの問合せ・訪問者対応

主な業績

《論文》

2019 佐野潤子、「An Expansionist Theory における有職母親の Multiple Role の要因の検討」、『生活経済学研究』、査読有、第 49 巻、2019 年 3 月、pp27-39.

《学会発表・報告等》

- 2018 学会発表: 日本家族社会学会「母親と父親の育児行動頻度と子育てに関する IT 利用の関わり—日米比較」(2018 年 9 月 8 日、中央大学多摩キャンパス)
- 2018 学会発表: 日本家政学会家族関係学部会「IT 利用と子育てにおけるジェンダー」(2018 年 10 月 13 日、鎌倉女子大学)
- 2018 学会発表: National Council on Family Relations, “The Effect of Mothers’ IT Use on Maternal Fulfillment and Anxiety over Children’s IT Use among Dual-Earner Families” (2018 年 11 月 8 日、Town and Country Resort and Convention Center, University of Nebraska-Lincoln, San Diego, California, サンディエゴ)
- 2018 学会報告: 生活経済学会関東部会「リスク選好におけるジェンダー—先行研究からの考察—」(2018 年 11 月 24 日、嘉悦大学)
- 2019 報告書: 「IT 利用と育児サポートネットワークは父親の育児行動頻度を高めるか: 日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」研究代表者石井クンツ昌子『平成 26 年度～平成 30 年度科学研究費補助金 基盤研究 課題番号 26242004 研究成果報告書 IT 社会の子育てと家族・友人関係: 日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から』、pp21-27.

《競争的資金》

- ・ 科学研究費若手研究「有職母親の複数役割満足感を高める要因の解析 —日本とノルウェーの国際比較—」(18K12924) (2018 年度～2022 年度)
- ・ 科学研究費基盤研究 A「IT 社会の子育てと家族・友人関係: 日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較から」、2014～2018 年度、研究代表者石井クンツ昌子教授 研究会メンバー



研究員 棚橋 訓

基幹研究院人間科学系・教授

文教育学部人間社会科学科教育科学コース

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野：文化人類学、オセアニア地域研究、ジェンダー文化論、
セクシュアリティ研究

主な担当業務：

ジェンダー研究所運営会議メンバー

マウラ・スティーブンス(国際交流基金フェロー/ハワイ大学大学院/IGS 研究協力
員)受入研究者



研究員 小玉 亮子

基幹研究院人間科学系・教授

生活科学部発達臨床心理学講座

博士前期課程人間発達科学専攻

博士後期課程人間発達科学専攻

専門分野：子ども社会学、教育学

主な担当業務：

ジェンダー研究所運営会議メンバー

Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and
Diversity (NJ_BREGED)メンバー



研究員 斎藤 悦子

基幹研究院人間科学系・准教授

生活科学部生活社会科学講座

博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース

博士後期課程ジェンダー学際研究専攻 ジェンダー論領域

専門分野：生活経済学、生活経営学、企業文化論

主な担当業務：

ジェンダー研究所運営会議メンバー



客員研究員 足立 真理子

委嘱期間: 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

研究プロジェクトタイトル

新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー: インド・フィリピン・中国の国際比較
(科学研究費基盤研究 B: 17H02247)

資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々

研究成果

論文掲載

足立真理子, 2018 「アベノミクスにおける金融緩和とジェンダー」『日本フェミニスト経済学会誌 経済社会とジェンダー』3: 43-57.

IGS セミナー企画開催

「フェミニスト視点からのグローバル化とディスロケーション: サスキア・サッセンとの対話」
(Globalization and Dislocation from Feminist Perspective: Dialogues with Saskia Sassen) (2018 年 10 月 15 日)



研究協力員 平野 恵子

委嘱期間: 2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

研究プロジェクトタイトル

現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容(基盤研究 C: 17K02067)

インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合(基盤研究 C: 17K02051)

研究成果

論文掲載

平野恵子, 2018, 「書評 安里和晃編『国際移動と親密圏-ケア・結婚・セックス』京都大学学術出版会、2018 年」『日本フェミニスト経済学会誌-経済社会とジェンダー』3: 137-9.

学会発表

Hirano Keiko, 2018, “Gig-economy and domestic workers in Indonesia” The 27th International Association for Feminist Economics (IAFFE) 2018 Annual Conference at SUNY New Paltz (New Paltz, NY), Panel on Women’s initiative to policy and practice in empirical studies: in qualitative research in the field of labor, activity and support, Oral Presentation, 19th June 2018.

平野恵子, 2018, 「ジャカルタ首都圏におけるギグ・エコノミーと家事労働者」日本フェミニスト経済学会 2018 年度大会於ウィングス京都 (2018 年 7 月 7 日)

IGS 主催研究会「IGS 研究協力員研究報告会」における発表

『技能化』と組織化: インドネシアにおける移住・家事労働者の権利保護 (2018 年 7 月 30 日)



研究協力員 マウラ スティーンズ

(ハワイ大学博士課程大学院生/国際交流基金フェロー)

受入期間: 2017 年 9 月 14 日～2018 年 3 月 31 日

受入担当: 棚橋 訓 (IGS 研究員/お茶の水女子大学教授)

研究プロジェクトタイトル: 日本における生理の経験に関する医療人類学的研究

研究成果

学会発表

“Managing” Menstruation in Japan: Experiences of Pain and Discomfort Hidden in Plain Sight, University of Hawai‘i at Mānoa Department of Anthropology Colloquium Series, Anthropology Graduate Student Research Symposium, Honolulu, Hawai‘i, April 11th, 2019

Putting Up with It: Hidden Experiences of Menstruation in Japan, Association for Asian Studies Conference, Denver, Colorado, March 23rd, 2019

Dealing with It: The Hidden World of Menstruation in Japan, American Anthropological Association 117th Annual Meeting, San Jose, California, November 15th, 2018

IGS 主催研究会「IGS 研究協力員研究報告会」における発表

「日本における生理に関する医療人類学的研究」(2018 年 7 月 30 日)

【事務系スタッフ】



特任リサーチフェロー 吉原 公美

主な担当業務:

ジェンダー研究所事務局統括
ジェンダー研究所特別招聘教授招聘事務および業務活動支援
ジェンダー研究所全体予算管理
各種報告書・報告データ作成
国際シンポジウム等運営 ほか



アカデミック・アシスタント 梅田 由紀子

主な担当業務:

文献収集・資料整理・附属図書館収蔵資料管理
IGS 史料電子化プロジェクト主任
AIT ワークショップ事務補佐
研究所事業事務
シンポジウム等運営事務・マニュアル作成
会計処理
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 滝 美香

主な担当業務:

研究所事業事務
会計処理
シンポジウム等運営事務
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 稲垣 明子

主な担当業務:

研究所事業事務
シンポジウム等運営事務
会計処理
書類作成・書類整理 ほか



アカデミック・アシスタント 和田 容子

主な担当業務:

年次事業報告書編集
『ジェンダー研究』編集員
成果発信原稿校閲
シンポジウム等運営補佐
研究所事業事務補佐 ほか

【資料】②研究プロジェクト一覧

(I) 政治・思想とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究

【研究担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【研究内容】

東アジア地域はその経済発展の成果により国際的に注目されているが、政治の民主化の道筋は一律ではない。本研究プロジェクトでは、日本、韓国、台湾の民主主義の有り様と政治代表性の関係について、ジェンダー視点に立脚した国際共同研究により比較分析する。議員を対象としたアンケート調査、政党、議員、市民社会関係者へのインタビューや現地でのフィールドワークを実施するほか、定期的な国際シンポジウムや研究集会を開き、研究交流を促進する。東アジア地域において、政治代表性の男性優位性が続くメカニズムを明らかにし、政治制度におけるジェンダー公平性・多様性を実現させる政策も検討する。2018 年は成果をまとめつつ、国内外で成果発表に力を入れた。(本報告書 18 頁参照)

科学研究費基盤研究 B (研究課題番号 18H00817)

女性の政治参画の障壁: 国会議員・県連への郵送・ヒアリング調査

【研究代表者】三浦まり(上智大学教授)

【研究分担者】申琪榮(IGS 准教授)、Noble Gregory(東京大学教授)、
スティール若希(東京大学准教授)、MCELWAIN KENNETH(東京大学准教授)

【期間】2018～2020 年度

【研究内容】

女性の政治参画に対する障壁を国会議員および主要政党の都道府県支部への調査を通じて明らかにする。国際的な研究成果に基づいて、とりわけ「政党の候補者リクルートメントと公認決定過程」に焦点をあて、郵送調査と政党関係者にインタビュー調査を組み合わせ、政治参画に関する男女差、政党差、地方差はどのように見られるかを考察する。(本報告書 19 頁参照)

韓国研究財団一般共同研究(課題番号 NRF-2016926559)

議会内政治的代表性の性差に関する公式、非公式的制度要因分析: 韓国・日本・台湾比較分析

【研究代表者】Ah-ran Hwang (釜山大学)

【研究分担者】申琪榮(IGS 准教授)、Jinock Lee(韓国ジェンダー政治研究所)、
Soo-hyun Kwon(韓国ジェンダー政治研究所)

【期間】2016～2018 年度

【研究内容】

2年間の研究助成による韓国調査の研究プロジェクトであり、最終年度の 2018 年には、主に成果のまとめと執筆に専念した。メンバーらによる韓国語、英語の成果発表がなされた。(本報告書 20 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

リベラル・フェミニズムの再検討

【研究担当】板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本研究プロジェクトの目的は、ベンサムやウルストンクラフト、J.S.ミルといった第1波フェミニズムあるいはリベラル・フェミニズムの思想・運動を再検討することにある。リベラリズムの公私二元論を前提にしたリベラル・フェミニズムは乗り越えの対象でしかないという捉え方が一般的だが、リベラリズムにおいて、「公」に対する「私」の領域は単に個人的自由の空間であると放任されるのではなく、不正義が存在すれば介入が正当化される空間でもあった。本研究では、ベンサムの女性論に関する草稿研究と、J.S.ミルの *The Subjection of Women*, 1869 のテキスト読解と『女性の隷従』新訳の作業を進め、リベラル・フェミニズム再検討の機運を盛り上げることを狙う。(本報告書 21 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

「東アジアの越境的女性運動」研究

【研究担当】大橋史恵 (IGS 准教授)

【研究内容】

今日の女性運動は、路上や広場、公共交通機関、大学キャンパス、議場、ジャーナリズム、サイバー空間など、さまざまな場で実践され、課題解決に向けた国際的連帯とアクションを生み出している。本研究は東アジアにおけるそのような越境的女性運動の展開について考察するものである。具体的には(1)ILO「家事労働者のためのディーセント・ワークに関する条約」(第 189 号条約)に関連する労働運動、(2)反軍事化をめぐる女性たちの運動、(3)中国の女権主義者たちのトランスローカルトランスナショナルな運動に目を向ける。(本報告書 22 頁参照)

(Ⅱ)生殖・身体とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

生殖医療とジェンダー

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【研究内容】

生殖医療の進歩はめざましく、第三者の精子や卵子、代理出産を利用した生殖医療技術の是非について、社会や専門家集団の間で検討が不十分なまま、一般社会での利用が広まっている。こうした状況は、産む性である女性たちに、より大きな影響を及ぼしている。本研究では、国内外を問わず、生殖医療の普及が女性たちに及ぼしている影響を明らかにする。(本報告書 24 頁参照)

IGS 研究プロジェクト

人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)、Yoon Jiso (韓国女性政策研究院研究員)

【研究内容】

日本も韓国も少子化の進行が社会問題となっているが、両国では生殖補助技術が少子化対策に利用されるようになってきている。本研究では、両国の政府が少子化対策として策定した不妊治療をサポートするためのプログラムや政策に焦点を当て、この不妊治療支援政策の効果、および少子化社会での社会的圧力による患者たちのストレスをジェンダー視点から検証する。(本報告書 25 頁参照)

科学研究費基盤研究C（研究課題番号 18K00034）

諸外国の配偶子ドナーの匿名性と出生者の知る権利の対立への対処に関する研究

【研究代表者】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2018～2020 年度

【研究内容】

日本の精子提供はこれまで匿名で実施されてきた。近年、卵子提供にも注目が集まる中、ドナーの匿名性の是非について議論される機会が増えたと予測される。本研究は国内での議論に向けて、出生者の出自を知る権利を法で保障する国について、法制定までにどのような議論があったか、および法施行後の状況明らかにするものである。(本報告書 26 頁参照)

公益財団法人トヨタ財団 2016 年度研究助成プログラム(B)個人研究助成

生殖補助技術で形成される家族についての研究

【研究担当】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2018～2019 年度

【研究内容】

近年、日本でも、生殖補助医療がますます一般化し、技術の需要も技術での出生児数も年々増加している。本研究では特に、第三者が介入する生殖技術で形成された家族について、国内外の家族へのインタビューを通して、家族の成り立ちを子どもたちとどのように共有し、家族関係を構築しているのかを探る。(本報告書 27 頁参照)

科学研究費基盤研究C（研究課題番号 16K12111）

AID で生まれた人の「出自を知る権利」を保障するための教材作成に関する研究

【研究代表者】清水清美 (城西国際大学教授)

【研究分担者】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー)

【期間】2016～2018 年度

【研究内容】

日本では提供精子による人工授精が 60 年以上も実施され、精子提供者は匿名を原則としてきた。しかし諸外国では、子の福祉を考慮し、ドナーの匿名性を廃止する動きが広がっている。本研究は精子提供の利用や精子ドナーになることを検討している人が、出生者の出自を知る権利の保障の重要性を理解できるような情報を提供する資料の作成を最終目的とする。(本報告書 28 頁参照)

(Ⅲ) 経済・移動とジェンダー

IGS 研究プロジェクト

資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々

【研究担当】足立眞理子 (IGS 客員研究員)

【メンバー】大橋史恵 (IGS 准教授)、板井広明 (IGS 特任講師)

【研究内容】

本プロジェクト「資本と身体ジェンダー分析: 資本機能の変化と『放逐』される人々」は、グローバル金融危機以降の資本の中核機能の変化を分析する。サスキア・サッセンの「放逐 expulsions」概念に着目して、従来の身体断片化や排除／包摂の概念では把握不能な「放逐」の「常態化」をジェンダー分析の視点から行う。(本報告書 30 頁参照)

科学研究費基盤研究 B（研究課題番号 17H02247）

新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー：インド・フィリピン・中国の国際比較

【研究代表者】堀芳枝（獨協大学教授）

【研究分担者】大橋史恵（IGS 准教授）、足立真理子（IGS 客員研究員）、長田華子（茨城大学准教授）、落合絵美（岐阜大学特任助教）

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

本研究は 2000 年代に入ってフィリピン、インド、中国でサービス部門の国際分業として展開し始めているビジネス・プロセス・アウトソーシング（BPO）の国際資本移転の動向と女性の労働、社会変容についての国際比較をおこなう。最終的には新興アジアのサービス部門の国際分業論の構築をめざす。（本報告書 31 頁参照）

IGS 研究プロジェクト

日比間の在留資格「興行」をめぐる言説編成の解明：入国管理のジェンダー分析を目指して

【研究担当】大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）

【研究内容】

本研究は在留資格「興行」の制度化と規制を取り巻く日本とフィリピンの複数のアクターの言説に注目し、それらが移住女性のセクシュアリティをいかに規定しながら、女性たちの来日・就労の有様を形成してきたのかを明らかにするものである。このような考察を通じて、入国管理のジェンダー分析の理論構築を目指す。（本報告書 32 頁参照）

科学研究費基盤研究 B（研究課題番号 17H02600）

日比間の人の移動における支援組織の役割：移住女性と JFC の経験に着目して

【研究代表者】小ヶ谷千穂（フェリス女学院大学教授）

【研究分担者】大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）、原めぐみ（和歌山工業高等専門学校助教）

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

過去 20 年以上にわたって、日比間の人の移動を大きく特徴づけてきた、在留資格「興行」での女性エンターティナーの流入と、その帰結としての日比国際児（Japanese Filipino Children: JFC）の誕生・成長、そして日本への新たな流入がみられる。本研究はこの一連の現象が日比双方の社会において「社会問題」視されてきた過程の中で、日比双方における支援組織がアクターとして果たしてきた役割について、複合的な視点から明らかにすることを目的とする。（本報告書 33 頁参照）

国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））（研究課題番号 18KK0056）

グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワーク分析から

【研究代表者】青山薫（神戸大学教授）

【研究分担者】大野聖良（IGS 特任リサーチフェロー）、熊田陽子（首都大学東京客員研究員）、中村文子（山形大学准教授）

【期間】2018～2022 年度

【研究内容】

本研究は、グローバル化がもたらした国境を越える性取引とは何かを、当事者の経験を通して、また、当事者と仲介者の接触を軸としたネットワークを通して明らかにすることをめざす。そのために本研究は、1) 性取引に携

り「脱法/不法就労者」とされる人々および人身取引対策等によって「被害者」とされる人々へのライフストーリー聞き取り調査、2) 当事者と性風俗産業をつなぐ仲介者あるいは人身取引トラフィッカーの関係を中心とするネットワーク分析を行う。(本報告書 34 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 17K04196)

人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷: ネットワーク再構築に向けて

【研究代表者】佐々木綾子(千葉大学講師)

【研究分担者】大野聖良(IGS 特任リサーチフェロー)、島崎裕子(早稲田大学准教授)

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

本研究は、「人身売買/取引」という現象が日本の市民活動にもたらした意義とその変遷を、同問題解決のための市民運動を担ってきた人々に焦点を当てて明らかにする。「人身売買/取引」をめぐる市民活動の求心力はどこにあり、それがどのように変遷したのかを考察することで、「人身売買/取引」概念を再考し、それに取り組むことのできる市民活動ネットワークを再構築することを研究の副次的目標とする。(本報告書 35 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 17K02067)

現代インドネシアにおける『移住・家事労働者』の変容

【研究代表者】平野恵子(IGS 研究協力員)

【期間】2017～2020 年度

【研究内容】

本研究は、インドネシアにおける「移住・家事労働者」の変容を、移民政策および国内家事労働者の派遣形態の変化から検討する。今年度は、特にジャカルタ首都圏における新中間層台頭を受けた居住形態の変化と、それに伴う家事労働者の派遣形態の変化の現状を把握し、従来の住み込み型との権利保障の差異を考察する。(本報告書 36 頁参照)

科学研究費基盤研究 C (研究課題番号 17K02051)

インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合

【研究代表者】中谷潤子(大阪産業大学准教授)

【研究分担者】平野恵子(IGS 研究協力員)、北村由美(京都大学准教授)

【期間】2017～2019 年度

【研究内容】

本研究は、インドネシア人移住労働者の再統合について、帰還後のライフステージ構築の過程を、本人や家族、コミュニティメンバーへの聞き取り調査をもとに明らかにする。分担者(平野)は特に、ジャカルタ首都圏における家事労働者組合で、移住家事労働を経験する組合員に帰還後の職業選択につき聞き取りをおこない上記課題を明らかにする。(本報告書 37 頁参照)

外国人特別招聘教授による研究プロジェクト

Maiko: Imagining Geisha Girlhood in Japan

【研究担当】 ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley、米・ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)

【研究内容】

平成時代の日本における「舞妓らしさ」の研究。平成時代の舞妓イメージは、かつての人身売買や搾取という暗い影を拭い去り、「カワイイ」京都のマスコットキャラクターとなっている。「舞妓らしさ」は京都の若い女性の理想像として語られ、舞妓をめざす少女たちはその理想像を体現することが期待される。その一方で、京都の観光局や、花街、漫画作家たちは、それぞれに異なる「舞妓らしさ」像を提供している。本研究は、商品デザインや、漫画作品、ライトノベルなどに描かれる「舞妓らしさ」を読み解き、現代の舞妓に期待されているジェンダー役割について分析する。

Democracy's Poster Girls: Beauty Queens and Fashion Models in Cold War Japan

【研究担当】 ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley、米・ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授)

【研究内容】

冷戦初期の日本において盛んに開催された、ファッションショー、ビューティーコンテスト、デザインコンクールなどは、国際的交流を推進する文化活動であると同時に、女性の解放や民主主義、自由といった、戦後の社会改革の政治理念を象徴するイベントでもあった。本研究は、米国の占領下の日本で、ファッションが西側イデオロギーの浸透に果たした役割について分析する。

議会文化のジェンダー化についての国際比較

【研究担当】 デルフィーヌ・ガルディ (Delphine Gardey、スイス・ジュネーブ大学教授)

【研究内容】

儀礼、空間、建築、象徴などの議会文化と、ジェンダーをめぐる議会環境が女性の存在にどう影響しているかについて、フランスとイギリスでの研究結果を日本の状況と比較する。議会のジェンダー化をもたらす文化的要素は、大きく二つの種類に分類できる。ひとつは、儀式やしきたり、空間や建築や議会秩序の記号的側面などの様式であり、もうひとつは、誰がそこに存在することを許されているかという「雰囲気」である。それぞれの国における議会政治の歴史とそこで構築されてきた議会文化を分析し、なぜ、男女平等の普通選挙権を得てから数十年が経過した今なお、女性たちはその場に参加するというだけのことに困難を感じなければいけないのかを考察する。

【資料】③協力研究者一覧

氏名・所属	協力事業*	参照
【海外】		
ディヤ・アブド (Diya Abdo) ギルフォード大学・米	(シ) アラブ世界の女性と逸脱	45 頁
シェリー・アデリナ (Shelly Adelina) インドネシア大学・インドネシア	(連) 海外研究交流	101 頁
ジャン・バーズレイ (Jan Bardsley) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	特別招聘教授	89 頁
	(シ) アラブ世界の女性と逸脱	45 頁
	(セ) ミレニアル舞妓さん	71 頁
アンネ・ボルグ (Anne BORG) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
ジェニファー・ブロンラ (Jennifer Branlat) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(セ) ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センターとの研究会	84 頁
	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	103 頁
アン・ブルノン＝エルンスト (Anne Brunon-Ernst) パリ第2パンテオン・アサス大学・仏	(連) 海外研究交流	99 頁
チョ・ソンナム (Sung-Nam Cho) 梨花女子大学校・韓	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
キンバリー・カウエル＝メイヤーズ (Kimberly Cowell-Meyers) アメリカ大学・米	(連) 海外研究交流	99 頁
	(国) <i>Politics & Gender</i> 共同編集	103 頁
メリッサ・デックマン (Melissa Deckman) ワシントン大学・米	(連) 海外研究交流	99 頁
	(連) 日米女性政治学者シンポジウム (JAWS)	106 頁
デボラ・デンプシー (Deborah Dempsey) スウィンバーン工科大学・オーストラリア	(連) 海外研究交流	98 頁
キム・アイン・ズオン (Kim Anh Duong) ベトナム女性学院・ベトナム	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
エリザベス・エヴァンス (Elizabeth Evans) ロンドン大学・英	(連) 海外研究交流	99 頁
	(国) <i>Politics & Gender</i> 共同編集	103 頁
ジーン・エンシーナス・フランコ (Jean Encinas Franco) フィリピン大学ディリマン校・フィリピン	(連) 海外研究交流	98 頁
デルフィーヌ・ガルディ (Delphine Gardey) ジュネーブ大学・スイス	特別招聘教授	92 頁
	(シ) 議員になれるのは誰なのか？	48 頁
	(セ) 主体、社会運動、民主主義	69 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
ハー・ジョンオク (Jung-Ok Ha) 大韓民国近代歴史博物館・韓	(連) 海外研究交流	97 頁
カリン・ハママーバーグ (Karin Hammarberg) モナシュ大学・オーストラリア	(連) 海外研究交流	98 頁
リンダ・ハスヌマ (Linda Hasunuma) ブリッジボード大学・米	(セ) 地政学、安全保障、女性の身体	65 頁
	(連) 海外研究交流	99 頁
アニス・ヒダヤッ (Anis Hidayah) 移民研究センター・インドネシア	(連) 海外研究交流	99 頁
デニス・M・ホーン (Denise M. Horn) シモンズ大学・米	(セ) 地政学、安全保障、女性の身体	65 頁
	(連) 海外研究交流	99 頁
ファン・チャンリン (Chang-Ling Huang) 国立台湾大学・台湾	(連) 海外研究交流	97 頁
	(国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	102 頁
ファン・アラン (Ah-ran Hwang) 釜山大学・韓	(研) (国) 議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的 制度要因分析	20 頁 102 頁
	(国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	102 頁
	(連) 海外研究交流	97 頁
スリスティヨワティ・イリアント (Sulistyowati Irianto) インドネシア大学・インドネシア	(連) 海外研究交流	101 頁
キム・ヘスク (Heisook Kim) 梨花女子大学校・韓	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
日下部京子 (Kyoko Kusakabe) アジア工科大学院大学・タイ	(連) AIT ワークショップ	107 頁
クォン・スヒョン (Soo-hyun Kwon) 韓国ジェンダー政治研究所・韓	(研) (国) 議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的 制度要因分析	20 頁 102 頁
	(国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	102 頁
	(連) 海外研究交流	97 頁
イ・ジンオク (Jinock Lee) 韓国ジェンダー政治研究所・韓	(研) (国) 議会内政治的代表的性の性差に関する公式、非公式的 制度要因分析	20 頁 102 頁
	(国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	102 頁
	(連) 海外研究交流	97 頁
エレオノール・レピナール (Éléonore Lépinard) ローザンヌ大学・スイス	(シ) 議員になれるのは誰なのか?	48 頁
アニンディター・マジャムダー (Anindita Majumdar) インド工科大学・インド	(連) 海外研究交流	98 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
メアリー・M・マッカーシー (Mary M McCarthy) ドライク大学・米	(セ) 地政学、安全保障、女性の身体 (連) 海外研究交流	65 頁 99 頁
クリスティン・オイガルドシリア (Kristine Øygardslia) ノルウェー科学技術大学・ノルウェー	(セ) ノルウェー科学技術大学 (NTNU) ジェンダー研究センターとの研究会 (国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	84 頁 103 頁
サスキア・サッセン (Saskia Sassen) コロンビア大学・米	(セ) フェミニスト視点からのグローバル化とディスロケーション	79 頁
ソン・イェラン (Ye-Rang Seong) 梨花女子大学校・韓	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
カレン・アン・シャイア (Karen Ann Shire) デュースブルグ・エッセン大学・独	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
ミア・シスチャワティ (Mia Siscawati) インドネシア大学・インドネシア	(連) 海外研究交流	101 頁
アニ・ウィダヤニ・スチプト (Ani Widayani Soetjipto) インドネシア大学・インドネシア	(連) 海外研究交流	101 頁
ワヒユ・スシロ (Wahyu Susilo) 移民研究センター・インドネシア	(連) 海外研究交流	99 頁
カニス・スヴィアニタ (Khanis Suvianita) スラバヤ大学・インドネシア	(国) インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合 (連) 海外研究交流	103 頁 98 頁
ウー・チアリン (Chia-Ling Wu) 国立台湾大学・台湾	(連) 海外研究交流	97 頁
ヤン・ワンイン (Wan-Ying Yang) 台湾国立政治大学・台湾	(連) 海外研究交流 (国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	97 頁 102 頁
ナディア・ヤクーブ (Nadia Yaqub) ノースカロライナ大学チャペルヒル校・米	(シ) アラブ世界の女性と逸脱	45 頁
ユン・ジソ (Jiso Yoon) 韓国女性政策研究院・韓	(研) 人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究 (連) 海外研究交流	25 頁 98 頁
【国内】		
青山薫 (Kaoru Aoyama) 神戸大学	(研) グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの	34 頁
井上雅人 (Masahito Inoue) 武庫川女子大学	(セ) 近代日本のファッション文化を再考する	59 頁
梅垣千尋 (Chihiro Umegaki) 青山学院女子短期大学	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
小ヶ谷千穂 (Chiho Ogaya) フェリス女学院大学	(研) 日比間の人の移動における支援組織の役割	33 頁
小沢佳史 (Yoshifumi Ozawa) 九州産業大学	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁
落合絵美 (Emi Ochiai) 岐阜大学	(研) 新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー	31 頁
小浜正子 (Masako Obama) 日本大学	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
金井郁 (Kaoru Kanai) 埼玉大学	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
北村由美 (Yumi Kitamura) 京都大学	(研) (国) インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合	37 頁 103 頁
熊田陽子 (Yoko Kumada) 首都大学東京	(研) グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの	34 頁
倉橋耕平 (Kohei Kurahashi) 立命館大学	(セ) 合評会: 倉橋 耕平『歴史修正主義とサブカルチャー: 90 年代保守言説のメディア文化』	57 頁
小門穂 (Minori Kokado) 大阪大学	(セ) フランスにおける LGBT と生殖医療、および性別の表記変更	67 頁
後藤浩子 (Hiroko Goto) 法政大学	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁
佐々木綾子 (Ayako Sasaki) 千葉大学	(研) 人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷	35 頁
島崎裕子 (Yuko Shimazaki) 早稲田大学	(研) 人身売買／取引をめぐる市民活動の変遷	35 頁
清水清美 (Kiyomi Shimizu) 城西国際大学	(研) AID で生まれた人の『出自を知る権利』を保障するための教材作成に関する研究	28 頁
スティー爾若希 (Jackie F. Steele) 東京大学	(研) 女性の政治参画の障壁	19 頁
	(国) 東アジアにおけるジェンダーと政治	102 頁
	(連) 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (GDRep)	101 頁
徐阿貴(ソ アキ) (Akwi Seo) 福岡女子大学	(セ) 地政学、安全保障、女性の身体	65 頁
嶽本新奈 (Niina Takemoto) 日本学術振興会特別研究員 PD ／明治学院大学	(セ) 近代日本の女性の移動と再生産	75 頁
鶴田幸恵 (Sachie Tsuruta) 千葉大学	(セ) 性同一性障害とトランスジェンダーは「水と油」か	77 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
富永京子 (Kyoko Tominaga) 立命館大学	(セ) 合評会: 倉橋 耕平『歴史修正主義とサブカルチャー: 90 年代保守言説のメディア文化』	57 頁
中谷潤子 (Junko Nakatani) 大阪産業大学	(研) (国) インドネシア人移住労働者における帰還後のライフステージに向けた再統合	37 頁 103 頁
中村文子 (Junko Nakatani) 山形大学	(研) グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの	34 頁
長田華子 (Hanako Nagata) 茨城大学	(研) 新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー	31 頁
Noble Gregory (ノーブル・グレゴリー) (Gregory Noble) 東京大学	(研) 女性の政治参画の障壁	19 頁
原めぐみ (Megumi Hara) 和歌山工業高等専門学校	(研) 日比間の人の移動における支援組織の役割	33 頁
土方直史 (Naobumi Hijikata) 中央大学	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁
日比野由利 (Yuri Hibino) 金沢大学	(セ) 代理出産をめぐる世界の現状	63 頁
船木恵子 (Keiko Funaki) 武蔵大学	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁
堀芳枝 (Yoshie Hori) 獨協大学	(研) 新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー (セ) フェミニスト視点からのグローバル化とディスロケーション	31 頁 79 頁
MCELWAIN KENNETH (ケネス・マッケルウェイン) (Kenneth McElwain) 東京大学	(研) 女性の政治参画の障壁	19 頁
三浦まり (Mari Miura) 上智大学	(研) 女性の政治参画の障壁 (国) 東アジアにおけるジェンダーと政治 (連) 日米女性政治学者シンポジウム (JAWS) (連) 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会 (GDRep) (シ) 議員になれるのは誰なのか? (編) 『ジェンダー研究』編集委員	19 頁 102 頁 106 頁 101 頁 48 頁 125 頁
村上彩佳 (Ayaka Murakami) 日本学術振興会特別研究員 PD ／上智大学	(シ) 議員になれるのは誰なのか?	48 頁
森村敏己 (Toshimi Morimura) 一橋大学	(セ) フランス啓蒙の女性論	73 頁
山尾忠弘 (Tadahiro Yamao) 日本学術振興会特別研究員 DC ／慶應義塾大学(院)	(セ) ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考	61 頁

氏名・所属	協力事業*	参照
【学内】		
室伏きみ子 (Kimiko Murofushi) 学長	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
小林誠 (Makoto Kobayashi) グローバルリーダーシップ研究所	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
戸谷陽子 (Yoko Totani) 基幹研究院人文科学系	(シ) アラブ世界の女性と逸脱	45 頁
天野知香 (Chika Amano) 基幹研究院文化科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
水野勲 (Chika Amano) 基幹研究院人間科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
森義仁 (Yoshihito Mori) 基幹研究院自然・応用科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
荒木美奈子 (Minako Araki) 基幹研究院人間科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
石丸径一郎 (Keiichiro Ishimaru) 基幹研究院人間科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
倉光ミナ子 (Minako Kuramitsu) 基幹研究院人間科学系	(編) 『ジェンダー研究』編集委員	125 頁
佐野潤子 (Junko Sano) グローバルリーダーシップ研究所	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	103 頁
松田デレク (Derek Matsuda) 国際教育センター	(国) Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED)	103 頁
大木直子 (Naoko Oki) グローバルリーダーシップ研究所	(シ) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像	54 頁
	(シ) 女性政治リーダーはいかにして「育つ」か？	51 頁
本山央子 (Hisako Motoyama) お茶の水女子大学(院)	(セ) 合評会：倉橋 耕平『歴史修正主義とサブカルチャー：90 年代保守言説のメディア文化』	57 頁
	(セ) フェミニスト視点からのグローバル化とディスロケーション	79 頁
	(セ) 地政学、安全保障、女性の身体	65 頁

* (研) 研究プロジェクト、(国) 国際共同研究プロジェクト、(連) 国際ネットワーク
(シ) シンポジウム、(セ) セミナー・研究会、(編) 『ジェンダー研究』編集委員

【資料】④国際シンポジウム・セミナー・研究会一覧

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 国際シンポジウム		
10/14	国際シンポジウム〔特別招聘教授プロジェクト〕 アラブ世界の女性と逸脱:グッドとバッドの境界で Arab Women and Transgression : At the Boundary of Good and Bad 【コーディネーター／司会】 ジャン・バーズレイ(IGS 特別招聘教授／ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授) 【趣旨説明】ジャン・バーズレイ 【研究報告】ナディア・ヤクープ(ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授) ディヤ・アブド(ギルフォード大学准教授) 【コメンテーター】戸谷陽子(お茶の水女子大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】59 名	45 頁
1/21	国際シンポジウム〔特別招聘教授プロジェクト〕 議員になれるのは誰なのか?:フランスの政治と議会史からみる立法府のジェンダー化 Who can be a Representative? Engendering Legislative Bodies: Lessons from the French Historical and Political Context 【コーディネーター】デルフィース・ガルディ(IGS 特別招聘教授／ジュネーブ大学教授) 【司会】申琪榮(IGS 准教授) 【研究報告】エレオノール・レピナール(ローザンヌ大学准教授) デルフィース・ガルディ 【コメンテーター】三浦まり(上智大学教授) 村上彩佳(日本学術振興会特別研究員 PD／上智大学) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】49 名	48 頁
グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム		
6/30	国際シンポジウム(ジェンダー研究所・グローバルリーダーシップ研究所共同) 女性政治リーダーはいかにして「育つ」か? Promoting Future Women Leaders in Politics 【基調講演者】野田聖子(総務大臣、女性活躍担当大臣、内閣府特命担当大臣、衆議院議員) 陳善美(韓国国会議員、弁護士) 【パネリスト】円より子(元参議院議員 女性のための政治スクール校長) ヨハンナ・ウッカマン(独・社会民主党常任理事、元党青年局全国代表) 陳善美(韓国国会議員、弁護士) 【パネル司会】申琪榮(IGS 准教授) 【総合司会】大木直子(グローバルリーダーシップ研究所特任講師) 【主催】グローバル女性リーダー育成研究機構 グローバルリーダーシップ研究所 ジェンダー研究所 【言語】日英韓(同時通訳) 【参加者数】451 名	51 頁

開催日	イベント詳細	参照
グローバル女性リーダー育成研究機構主催 国際シンポジウム		
1/12	国際シンポジウム(ジェンダー研究所・グローバルリーダーシップ研究所共同) ジェンダー視点に基づいたグローバル女性リーダー像 Women's Global Leadership from Gender Perspectives 【学長講演】「ジェンダー平等と女性のリーダーシップ」 キム ヘスク(梨花女子大学総長) アンネ・ボルグ(ノルウェー科学技術大学副学長) 室伏きみ子(お茶の水女子大学長) 【パネルディスカッション】「グローバル女性リーダー:多様性とネットワーク」 ソン イェラン(梨花女子大学校リーダーシップ開発院研究員) キム・アイン・ズオン(ベトナム女性学院副学長) 石井クンツ昌子(お茶の水女子大学教授・ジェンダー研究所長) 小林誠(お茶の水女子大学教授・グローバルリーダーシップ研究所長) チョ ソンナム(梨花女子大学教授・リーダーシップ開発院長) 【パネル司会】大木直子(グローバルリーダーシップ研究所特任講師) 【総司会】小林誠(グローバルリーダーシップ研究所長) 【主催】グローバル女性リーダー育成研究機構 グローバルリーダーシップ研究所 ジェンダー研究所 【言語】日英(同時通訳) 【参加者数】170 名	54 頁
IGS 主催 IGS セミナー		
6/5	合評会:倉橋 耕平『歴史修正主義とサブカルチャー:90 年代保守言説のメディア文化』 〔東アジアにおけるジェンダーと政治研究プロジェクト①〕 【司会】申琪榮(IGS 准教授)、板井広明(IGS 特任講師) 【報告】倉橋耕平(立命館大学非常勤講師ほか) 【コメンテーター】富永京子(立命館大学准教授)、本山央子(お茶の水女子大学(院)) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】55 名	57 頁
6/26	近代日本のファッション文化を再考する:女性・近代化・対抗文化 〔東アジアにおけるジェンダーと政治研究プロジェクト②〕 【司会】板井広明(IGS 特任講師) 【報告】井上雅人(武庫川女子大学准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】62 名	59 頁
10/1	ブリテンにおける「リベラル・フェミニズム」再考 【コーディネーター／司会】板井広明(IGS 特任講師) 【報告】梅垣千尋(青山学院女子短期大学教授)、板井広明(IGS)、土方直史(中央大学・名誉教授) 山尾忠弘(日本学術振興会特別研究員 DC/慶應義塾大学・院)、船木恵子(武蔵大学研究員) 【討論者】後藤浩子(法政大学教授) 小沢佳史(九州産業大学講師) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】47 名	61 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
10/29	生殖領域シリーズ 1 代理出産をめぐる世界の現状: 商業的代理出産から利他的代理出産へ 〔生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会〕 【講師】日比野由利(金沢大学助教) 【ファシリテーター】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】33 名	63 頁
11/9	地政学、安全保障、女性の身体 〔東アジアにおけるジェンダーと政治研究プロジェクト③〕 【司会】申琪榮(IGS 准教授) 【報告者】デニス・M・ホーン(シモンズ大学准教授)、リンダ・ハスヌマ(ブリッジポート大学助教授)、メアリー・M・マッカーシー(ドライク大学准教授) 【討論者】平野恵子(IGS 研究協力員)、本山央子(お茶の水女子大学・大学院) 徐阿貴(福岡女子大学准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】17 名	65 頁
11/16	生殖領域シリーズ 2 フランスにおける LGBT と生殖医療、および性別の表記変更 〔生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会〕 【報告者】小門穂(大阪大学大学院助教) 【ファシリテーター】仙波由加里(IGS 特任リサーチフェロー) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】39 名	67 頁
12/13	〔特別招聘教授プロジェクト〕 Bodies, Collective Action and Democracy : Engaging with Judith Butler's Work (主体、社会運動、民主主義: ジュディス・バトラーによる理論構築の検討) 【講師】デルフィーヌ・ガルディ(IGS 特別招聘教授/ジュネーブ大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】30 名	69 頁
2/8	〔特別招聘教授プロジェクト〕 Millennial Maiko : The Geisha Apprentice in Japanese Popular Culture (ミレニアル舞妓さん: 日本のポピュラーカルチャーにおける舞妓像) 【報告者】ジャン・バーズレイ(IGS 特別招聘教授/ノースカロライナ大学チャペルヒル校教授) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語 【参加者数】20 名	71 頁

開催日	イベント詳細	参照
IGS 主催 IGS セミナー		
2/15	フランス啓蒙の女性論 【コーディネーター／司会】板井広明 (IGS 特任講師) 【講師】森村敏己 (一橋大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】31 名	73 頁
2/21	近代日本の女性の移動と再生産:「からゆきさん」の生涯をめぐって 【司会】大野聖良 (IGS 特任リサーチフェロー) 【報告】嶽本新奈 (日本学術振興会特別研究員 PD／明治学院大学) 【討論者】大橋史恵 (IGS 准教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】35 名	75 頁
3/7	性同一性障害とトランスジェンダーは「水と油」か 【コーディネーター／司会】板井広明 (IGS 特任講師) 【講師】鶴田幸恵 (千葉大学教授) 【主催】ジェンダー研究所 【参加者数】66 名	77 頁
IGS 共催 IGS セミナー		
10/15	Globalization and Dislocation from Feminist Perspective Dialogues with Saskia Sassen (フェミニスト視点からのグローバル化とディスロケーション:サスキア・サッセンとの対話) 【司会】大橋史恵 (IGS 准教授) 【講演】サスキア・サッセン (コロンビア大学教授) 【ワークショップ ディスカッション】堀芳枝 (獨協大学教授)、大野聖良 (IGS 特任リサーチフェロー) 本山央子 (お茶の水女子大学大学院) 【共催】ジェンダー研究所、科学研究費プロジェクト「新興アジア諸国の BPO 産業の成長とジェンダー:インド・フィリピン・中国の国際比較」(基盤研究 B 代表:獨協大学、堀芳枝) 【協賛】日本フェミニスト経済学会 (JAFPE) 【後援】経済理論学会問題別分科会「ジェンダー」 【協力】FFU (フェミニスト自由大★学) 【言語】英語 【参加者数】25 名	79 頁

開催日	イベント詳細	参照
主催 IGS 研究会		
7/30	IGS 研究協力員 研究報告会 【司会】仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー) 【報告】平野恵子 『『技能化』と組織化: インドネシアにおける移住・家事労働者の権利保護』 マウラ・スティーブンス 「日本における生理に関する医療人類学的研究」 【参加者数】11 名	82 頁
11/27	ノルウェー科学技術大学ジェンダー研究センターとの研究会 【出席者】 Jennefer Branlat (ノルウェー科学技術大学学際的文化研究学部准教授) / Kristine Øygardslia (同 ポスドク研究員) 石井クンツ昌子 (IGS 所長) / 申琪榮 (IGS 准教授) / 大橋史恵 (IGS 准教授) / 板井広明 (IGS 特任講師) / 仙波由加里 (IGS 特任リサーチフェロー) / 大野聖良 (IGS 特任リサーチフェロー) / 吉原公美 (IGS 特任リサーチフェロー) / 佐野潤子 (グローバルリーダーシップ研究所 (IGL) 特任講師) 【オブザーバー参加】ジャン・バーズレイ (IGS 特別招聘教授) / 小林誠 (IGL 所長) 【主催】ジェンダー研究所 【言語】英語	84 頁
協カシンポジウム		
2/2	育児期親子の IT とソーシャルメディア活用 日本、韓国、米国、スウェーデンの国際比較 【総合司会】加藤邦子 (川口短期大学教授) 【基調講演】榊原洋一 (お茶の水女子大学名誉教授、ベネッセ教育総合研究所常任顧問・チャイルド・リサーチ・ネット所長、日本こども学会会長、小児科医) 【パネリスト】李秀眞 (弘前大学准教授) 根本宮美子 (京都外国語大学教授) 高橋美恵子 (大阪大学教授) 石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学教授 / IGS 所長) 【パネルディスカッション司会】牧野カツコ (お茶の水女子大学名誉教授) 【主催】お茶の水女子大学 IT 科 研 研 究 会 (石井クンツ昌子研究室) 【協力】ジェンダー研究所 【参加者数】103 名	85 頁

【資料】⑤2018 年度新規収蔵図書・資料

・2018 年度、外部からの寄贈により以下の書籍が新規収蔵された。〔寄贈者名『書名』(著者名)〕(敬称略)

アジア経済研究所『不妊治療の時代の中東一家族をつくる、家族を生きる―』(村上薫)／フェリス女学院 150 年史編纂委員会『学校日誌にみる学院と生徒たち 1924-1946』(フェリス女学院 150 年史編纂委員会(フェリス女学院 150 年史資料集;5))／一橋大学大学院社会学研究科『ジェンダー研究を継承する』(佐藤文香、伊藤るり)／熊田陽子『性風俗世界を生きる「おんなのこ」のエスノグラフィー』(熊田陽子)／関口裕子氏女性史論文集刊行会『日本古代女性史の研究』(関口裕子)／京都橘大学 女性歴史文化研究所『身体はだれのものか』(南直人、北山晴一、日比野英子、田端泰子)／山崎眞紀子ほか『女性記者・竹中繁のつないだ近代中国と日本――一九二六～二七年の中国旅行日記を中心に―』(山崎眞紀子、石井照子、須藤瑞代、藤井敦子、姚毅)／東京外国語大学出版会『インド ジェンダー研究ハンドブック』(栗屋利江、井上貴子)

・2018 年度、寄贈、購入によりジェンダー研究所から以下の書籍が新規収蔵された。〔『書名』(著者名)〕

『ABSTRACT BODIES』(David J. Getsy)／『Bodies That Matter』(Judith Butler)／『CONTESTED CHILDHOOD』(Susan D. Holloway)／『Dancing Female』(Sharon E. Friedler & Susan B. Glazer)／『Gender and Global Justice』(Jaggar)／『GENDER AND RISK-TAKING』(Julie A. Nelson)／『Gender, Work, and Economy』(Heidi Gottfried)／『Gendered Migrations and Global Social Reproduction』(Eleonore Kofman, Parvati Raghuram)／『Handbook of the Sociology of Gender』(Barbara J. Risman ほか)／『Hope in the Dark: Untold Histories, Wild Possibilities』(Rebecca Solnit) ※原書、日本語訳本／『Is Critique Secular?: Blasphemy, Injury, and Free Speech』(Judith Butler)／『Japanese Religions on the Internet』(Erica Bafferi)／『Japanese Women in Science and Engineering』(Naonori Kodate and Kashiko Kodate)／『Media and New Religions in Japan』(Erica Bafferi)／『Men Explain Things to Me』(Rebecca Solnit) ※原書、日本語訳本／『Rethinking Japanese Feminisms』(Julia C. Bullock, Ayako Kano, James Welker)／『See Red Women's Workshop: Feminist Posters 1974-1990』(Prudence Stevenson, Susan Mackie)／『Senses of the Subject』(Judith Butler)／『The Impact of Gender Quotas』(Franceschet, Krook, Piscopo)／『The Power of Religion in the Public Sphere』(Judith Butler)／『The Reproductive Bargain』(Heidi Gottfried)／『Vulnerability in Resistance』(Judith Butler)／『Wanderlust: A History of Walking』※原書、日本語訳本(Rebecca Solnit)／『WESTERN HIGHER EDUCATION IN ASIA AND THE MIDDLE EAST』(KEVIN GRAY, HASSAN BASHIR, STEPHEN KECK)／『Women and Family in Contemporary』(Susan D. Holloway)／『Women and Politics in Contemporary Japan』(Emmo Dalton)／『Women's』(Feminist/Gender Studies in the U.S./Estelle B. Freedman(公益財団法人東海小冊子;3))／『13 歳、「私」をなくした私』(山本潤)／『Black Box』(伊藤詩織)／『LGBT と女子大学』(日本女子大学人間社会学部 LGBT 研究会編)／『アスピーガールの心と体を守る性のルール』(デビ・ブラウン著 ; 村山光子, 吉野智子訳)／『「慰安婦」問題を／から考える』(歴史学研究会・日本史研究会編)『岡山の奇人変人』(蓬郷巖 編(岡山文庫;74))／『沖縄ジェンダー学 1 「伝統」へのアプローチ』(喜納育江編著)／『沖縄ジェンダー学 2 法・社会・身体制度』(喜納育江・矢野恵美編著)／『沖縄ジェンダー学 3 交差するアイデンティティ』(喜納育江編著)／『家族難民 生涯未婚率 25% 社会の衝撃』(山田昌弘)／『海を渡る「慰安婦」問題』(山口智美・能川元一・テッサ・モーリス・スズキ・小川エミ編)／『京城のモダンガール』(徐智瑛)／『近代日本公娼制の政治過程―新しい男』

をめぐる攻防 佐々城豊寿・岸田俊子・山川菊栄』(関口すみ子)／『最下層女子校生』(橘ジュン)／『私の中のわたし』(オルガ・R・トゥルヒー)／『首相官邸の前で』(小熊英二)／『ジュディス・バトラー 生と哲学を賭けた闘い』(藤高和輝)／『女子高生の裏社会』(仁藤夢乃)／『女性の暮らしと生活意識データ集』(三冬社 編集制作部)／『女性の暮らしと生活意識データ集 2018-2019』(三冬社 編集制作部)／『女性白書 2017』(日本婦人団体連合会編)／『少子化時代の「良妻賢母」』(S.D.ハロウェイ)／『人口減少社会の未来学』(内田樹 編著)／『性風俗世界を生きる「おんなのこ」のエスノグラフィー』(熊田陽子)／『政治学の批判的構想 ジェンダーからの接近』(衛藤幹子)／『生涯未婚時代』(永田夏来)／『IGS Project Series;17 生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会報告書』(お茶の水女子大学)／『第 20 回全国シェルターシンポジウム 2017 in 東京』(全国女性シェルターネット、第 20 回全国シェルターシンポジウム 2017 in 東京 実行委員会)／『只野真葛』(関民子)／『男女共同参画社会データ集』(三冬社 編集制作部)／『男女平等は進化したか 男女共同参画基本計画の策定、施策の監視から』(鹿嶋敬)／『知識経済をジェンダー化する 労働組織・規制・福祉国家』(大澤真理 編訳)／『超ソロ社会』(荒川和久)／『提供配偶子で形成された家族に関する研究 ニュージーランド調査報告書』(仙波由加里、清水清美)／『ドクトルたちの奮闘記』(石原あえか)／『なかったことにしたくない』(東小雪)／『日本の女性議員 どうすれば増えるのか』(三浦まり)／『バイオエシックス その継承と発展』(丸山マサ美 編著)／『漂流女子』(中島かおり)／『文科省』(高校「妊活」教材の嘘/西山千恵子、柘植あづみ)／『北海道社会とジェンダー』(札幌女性問題研究会)／『未婚当然時代』(にらさわあきこ)／『未来の年表』(河合雅司)／『裸足で逃げる 沖縄の夜の街の少女たち』(上間陽子)／『ヨウチエン』(S.D.ハロウェイ)／『わたしを生きる知恵 80 歳のフェミニストカウンセラーからあなたへ』(河野貴代美)

【資料】⑥史料電子化プロジェクト：電子化イベント一覧

女性文化資料館(1975-1985)/女性文化研究センター(1986-1995)イベント一覧				
年度	活動区分	開催日	イベントタイトル	登壇者
1977	講演会	1977/9/22	湯浅年子先生講演会	湯浅年子
(S52)	シンポジウム	1978/1/14	シンポジウム	
	研究会	1978/2/8	山川菊栄と女性解放思想(木下 研究会)	
	研究会	1978/3/6	社会学における家族	
	研究会	1978/3/22	山川菊栄研究	
1978	研究会	1978/6/6	女性史研究会 欧米の女性論	
(S53)	研究会	1978/7/27	女性史研究会 欧米の女性論	
1979	研究会	1979/5/24	女性の教育と女性問題	
(S54)	研究会	1979/10/4	アメリカ婦人労働の法的諸問題	
	シンポジウム	1980/1/26	総合科目「婦人問題」に関するシンポジウム	
	研究会	1980/2/12	中山みきの思想と歩み—陽気づくめの世界をめざして 50 年—	吉原敬子
		1980/3/1	杉田和子、小島栄子、岩本のり子 於: 中村屋	
1980	研究会	1980/4/1	平安時代の相統制と女子相統権—『平安遺文』文書を中心として—	服藤早苗
(S55)	研究会	1980/4/23	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅰ〕	村松弘子ほか
	研究会	1980/5/29	〔マーガレット・ミードの女性研究Ⅱ〕	田中和子ほか
	研究会	1980/7/3	インドにおける女性の政治的役割	Chandra Mudaliar
	研究会	1980/10/18	〔コペンハーゲン婦人会議及び婦人差別撤廃条約について〕【婦人問題懇話会 講演会】	船橋邦子ほか
	研究会	1980/10/20	性役割とセクシズム	小林啓子
	研究会	1980/11/5	Feminist Literary Criticism からみた『砂の女』	Chigusa Kimura-Steven
	研究会	1980/12/25	目黒依子『女役割』について	田中和子ほか
	研究会	1981/2/12	アメリカの女性史	金子幸子ほか
	研究会	1981/3/27	フランス社会史の動向と女性史	小島智恵
1981	研究会	1981/5/27	人類学者のみた個人的アメリカ女性史	Frederica de Laguna
(S56)	研究会	1981/5/29	Role's of Women's College	Frederica de Laguna
	研究会	1981/6/12	『性の署名』について(1)	内藤和美ほか
	研究会	1981/7/4	『性の署名』について(2)	平川和子
	研究会	1981/7/12	高群逸枝の婚姻・家族形態研究の意義について	関口裕子
	研究会	1981/9/9	カナダの女性学について	Patricia Morley ほか
	研究会	1981/10/16	家族・親族理論研究動向	田中真砂子
	研究会	1981/11/25	兼業農家女性の就労形態の変容—長野県諏訪地方の場合—	久保桂子
	研究会	1981/12/15	オーストラリアと日本の婦人運動／ニュージーランドの女性の地位について	Romanovsky Ulrike ほか
	研究会	1982/1/27	千葉県における廃娼運動—国防婦人会との関連において—	船橋邦子
	研究会	1982/3/24	近現代日本の社会教育と婦人団体	木下 ユキエ
1982	研究会	1982/4/23	女子大学の存在意義を考える—アメリカ・フランス・インド等の各国を見て—	広中和歌子

(S57)	研究会	1982/5/22	女性学研究会 井上輝子、目黒依子	
	研究会	1982/6/4	近世における女性と家族	林玲子ほか
	研究会	1982/10/22	平安時代の養子制度について—日本家族の特質をテーマに—	William McCullough ほか
	研究会	1982/11/24	バングラディシュの女性について	武藤敦子
	研究会	1982/12/13	Consort, mother, beloved, "Vamp"; the symbolic depiction of womanhood in Indian calendar art	Patricia Uberoi ほか
	研究会	1983/1/24	出産の社会史—家族の近代化に関連して—	落合恵美子
	研究会	1983/2/15	韓国の女性について	鄭金子ほか
	研究会	1983/3/22	『巫女の文化』について—古代女性史の見直しのために—	倉塚暉子ほか
1983	研究会	1983/5/30	ガブリエラ・ミストラルと『女性読本』について	田村さと子
(S58)	研究会	1983/6/30	Japanese-German Marriage in Japan: a tentative approach	Irene Hardach-Pinke
	研究会	1983/7/29	『性の深層』をめぐって—現代西ドイツの女性運動との関連で—	大沢三枝子
	研究会	1983/9/26	『妻と夫の社会史』について	山本郁子ほか
	研究会	1983/11/1	女性の側からジェンダーを考える	若井文恵ほか
	研究会	1983/11/21	Intellectual Differences between Woman and Man "Inherited or Acquired?"	Virginia Mann ほか
	研究会	1983/12/15	機械女工たちの近代	古庄正
	研究会	1984/2/22	『婦女新聞』の出発	石崎昇子ほか
	研究会	1983/3/13	フィリップ・アリエス研究—子ども・教育・女性—	波多野完治ほか
1984	研究会	1984/4/24	日本の離婚調停に関する研究	Taimie Bryant
(S59)	研究会	1984/5/15	『更級日記』作者の宗教的コンプレックス	高木きよ子
	講演会	1984/5/31	お茶の水女子大学百年史刊行記念講演会	林太郎ほか
	研究会	1984/6/20	キリスト教文化と女性	杉田弘子
	研究会	1984/7/6	The Function of Libraries, Women's Centers, and "Women's Studies" in doing Feminist Research	Helen Wheeler ほか
	研究会	1984/10/23	『私生子』概念の発生と消長—明治期を中心とする法制・歴史と実際の扱い—	田中弘子
	研究会	1984/11/20	Woman and Nature	Susan Griffin ほか
	研究会	1984/12/11	中国女性史研究—小野和子『中国女性史』を読んで—	加藤直子
	研究会	1985/2/25	樋口一葉の文学—『十三夜』と『人形の家』の比較を中心に—	フランシスカ・フンチカ
	研究会	1985/3/14	近世関東農村における女性労働者の存在形態—年季・日雇奉公人の分析から—	青木道子
1985	研究会	1985/4/26	ユートピアと性	倉塚平
(S60)	研究会	1985/5/29	西欧近代の結婚観—キルケゴールをめぐって—	野村明代
	研究会	1985/6/12	清代において模範とされている女性について	Susan Mann
	研究会	1985/6/13	食事が子供の身体と心に与えるもの	
	研究会	1985/7/4	韓国女性の政治的、社会的地位	白京男
		1985/10/5	第三世界の女性たちと私たち—ナイロビ報告(日本婦人問題懇話会)	
	研究会	1985/10/28	『源氏物語』にみる婚姻と居住形態と相続—光源氏と紫の上と明石君をめぐる—視角—	木下ユキエ
	研究会	1985/11/15	主婦とテレビ	香取淳子
	シンポジウム	1985/11/27	産むことを考える	加藤シヅエほか
	研究会	1985/12/18	イタリア女性解放思想の歴史と今日的な段階—19 世紀末から現在に至る主要な事項—	Argnani Fausta

	研究会	1986/1/16	スイスにおける女性史研究—論文集『女性』と『イティネラ』にみる女性史家の研究動向—	佐藤るみ子
	研究会	1986/3/3	「円地文子論—自然な女」の周辺—	宮内淳子
1986	研究会	1986/4/25	フランス現代女性思想の流れ—ボーヴォワール・クリスティヴァ・イリガライ	棚沢直子
(S61)	研究会	1986/6/24	日本文化における『悪女』	Valerie・L・Durham
	研究会	1986/10/3	航空史における女性の役割—ドイツ女性スポーツ史の視角から	Gertrud Pfister
	研究会	1986/11/20	韓国の家族について	徐炳淑
	研究会	1986/12/8	バングラディシュの女性—女性政策の視点から—	Jowshan Ara Rahman (ほか)
	研究会	1987/1/14	中東世界の女性—イスラームの原理と実像	黒田美代子
	研究会	1987/3/3	マレーシアの女性	Goh Beng Lan
1987	研究会	1987/4/23	公民の妻/青年団における女子活動の設立	渡辺洋子(ほか)
(S62)	研究会	1987/5/15	Impact of Economics & Technological Change on Women	Tamara・Hareven
	研究会	1987/6/24	円地文子の描いた女性像	アイリーン・マイカルス・アダチ
	研究会	1987/7/14	家計構造の長期的変容	田窪純子
	研究会	1987/8/25	舞踊と語り……祖母の語りとその姿	江川まゆみ
	研究会	1987/10/26	ラテン・アメリカの女性像	三田千代子
	研究会	1987/11/25	和泉式部と仏教	小野美智子
	研究会	1987/12/16	タイ社会における女性の役割	小野沢・ニッタヤー
	研究会	1988/2/10	日本における転勤の問題とデュアル・キャリア・ファミリーについて	青木由紀
	研究会	1988/3/10	新しい家庭科をめざして	西谷洋子
	研究会	1988/3/10	家庭科における消費者教育	小関禮子
1988	研究会	1988/4/11	Income Generation of Women in Rural Bangladesh	Kohinoor Begum
(S63)	研究会	1988/5/26	South Asian Women: Challenges & Prospects	Urmila Phadnis
	研究会	1988/6/22	Some Implications of Women's Status in China	Beverly Y. B. Hong
	研究会	1988/7/8	性役割意識に関連する韓国人の価値観	金炳端
	研究会	1988/9/7	こどもの虐待と放置—小児科の全国調査から—	内藤和美
	研究会	1988/11/25	フェミニスト研究の軌跡—Stanley & Wise の『フェミニズム社会科学に向かって』が提起するもの—	矢野和江
	研究会	1989/2/21	アジアにおける女性と仕事	Noeleen Heyzer
	研究会	1989/3/7	日本のフェミニストの意識と alternative な生活スタイル	ゴー・ベン＝ラン
1989	研究会	1989/4/5	男女平等教育の実践に向けて	Peggy McIntosh
(H1)	研究会	1989/4/14	Education of Scientist who Happen to Be Women	Emily L. Wic
	研究会	1989/6/1	鎌倉期の乳父について—その存在形態と乳母との関連	秋山貴代子
	研究会	1989/6/12	Modernisation en Iran et Le Changement Socio-cultural de Role de la Femme	Nasrin F. Hakami
	研究会	1989/7/17	Problems of Homeless Children in India	Rajani Paranjipe
	合評会	1989/9/11	原ひろ子著『ヘアー・インディアンとその世界』について	田中真砂子
	研究会	1989/10/4	スペイン内戦下の女性たち	秋山充子
	研究会	1989/11/17	Women and / in Media	Ann Simonton
	シンポジウム	1989/12/13	お茶の水女子大学留学生懇談会	

	シンポジウム	1989/11/29 12/20,199 0/3/19	特定研究「女性のライフコースの多様化と女子大学の役割」	Peggy McIntosh
1990	シンポジウム	1990/4/23, 24	『母性』をめぐる日独シンポジウム	舘かおるほか
(H2)	研究会	1990/5/18	Systematic Planning for Women's in Development and Activities	Barbara Knudson
	研究会	1990/6/14	マレー農村社会における性役割—東南アジアの伝統とイスラム規範のほざまにて	花見慎子
	研究会	1990/6/26	Women's Mothering and Working Roles in Japan and the United States	Brenda Bankart
	研究会	1990/9/25	中央ユーラシア遊牧民の歴史にみる女性像	宮脇淳子
	研究会	1990/10/23	福沢諭吉の女性論	杉原名穂子
	研究会	1990/11/22	日本近代女性の自伝を読む	Ronald P. Loftus
	研究会	1990/12/5	精神的母性	Elisabeth Gössmann
	研究会	1991/3/13	女性の自然科学研究者の進路決定要因の研究について	ビヴァリー・ゲッツイ
1991	研究会	1991/5/29	大正時代の『令女会』の歌曲—女学生の歌唱と女学生向け創作歌曲の一考察	坂本麻実子
(H3)	研究会	1991/6/10	An Anthropological Study of Gender Science in Japan & U.S.	Sharon Traweek
	研究会	1991/6/18	To a Safer Place	Dane Raphael
	研究会	1991/10/4	Woman's Movement in Comparative Perspective	Ilse Lenz
	研究会	1991/10/9	Women of the Tlingit Society in Historical Perspective	Frederica de Laguna
	研究会	1991/10/31	Confusionism and Modern Chinese Women's Family Life	黄育馥
	研究会	1991/11/15	フェミニズムの方法としてのメモリーワーク	Frigga Haug ほか
	研究会	1991/11/19	クリスティヴァ『女の時間』を読む	棚沢直子
	研究会	1991/12/19	The Situation of the Swedish Women Today	Malin Ronnblom
	研究会	1992/1/30	自治体における女性学	栗園千恵子
	研究会	1992/2/12	中国の少数民族における女性	劉耀荃
	研究会	1992/2/20	アメリカ女性学の現段階: 女性学の理論家と県空者養成システム	三宅義子
	研究会	1992/3/13	『女性と労働』日独シンポジウム	
1992	研究会	1992/4/15	Women's Studies in Canada	Naomi Black
(H4)	研究会	1992/4/20	Sexuality and Reproduction in Women's Utopian Dystopian Literature	Blaine Martin
	研究会	1992/6/19	湯浅年子博士資料的研究の歩み	松田久子
	研究会	1992/6/22	ジェーン・アダムスの思想と行動	米澤正雄
	研究会	1992/7/20	女性と開発をめぐる諸問題	村松安子
	研究会	1992/10/26	沖縄における女性の就労と性役割分業観	国吉和子
	講座	1992/11/21 28,12/5	次世代育成能力を考える	原ひろ子ほか
	研究会	1993/1/28	南インド・ナガラッターールにおける親族・婚姻及び女性	西村祐子
1993	研究会	1993/5/18	中国における職業分化に伴う女性の価値観と行為方式の変化について	沙蓮香
(H5)	研究会	1993/6/24	女性と表彰—"模範嫁"表彰の聞き取り調査をめぐって—	熊澤知子
	研究会	1993/7/16	ベルリンの老人ホームとケア付き集合住宅	大澤真理
	研究会	1993/9/22	女性の自己表現と文学—野上彌生子におけるフェミニズムと形式—	藤田和美
	研究会	1993/10/15	—政治学者のみたジェンダー研究—オリエンタリズムとの関連—	石田雄

	特定研究懇談会	1993/11/13	Women in Higher Education—A case of the University of California USA—	Dr.Maresi Nerad
	研究会	1993/11/14	変容する男性社会—労働、ジェンダーの日独比較	高島道枝ほか
	研究会	1993/12/3	Gender,Justice and Therapy: Can One Be a Feminist and Practise Family Therapy?	Jan McDowell
	シンポジウム	1993/12/14,15	女性とメディア	
	シンポジウム	1994/1/20	特定研究「ライフコースの多様化の時代における大学教育と女性」	
1994 (H6)	研究会/シンポジウム	1994/4/7	エコロジーとフェミニズムを考える	Maria Mies ほか
	研究会	1994/6/1	オーストラリア女性史研究—女性史からフェミニスト史へ	Vera Mackie
	研究会	1994/7/27	いけ花と日本女性: 知の発達・地から・ジェンダー	飛田尚弥
	研究会	1994/8/29	Feminist Studies and Qualitative Empirical Methods: the Case of Sex Tourism and Traffic in Women	Ilse Lenz
	研究会	1994/9/27	Internationalization and Gender Relations: Theoretical Approaches	Ilse Lenz
	研究会	1994/10/31	家族法改正をめぐる文献とその論点	海妻径子
	シンポジウム	1994/11/2	学内共同教育研究プロジェクト・大学における女性学及び女性学研究センターの役割について	
	研究会	1995/1/27	How to combine Parenthood and Work?—Policies on Gender in Sweden—	Rita Liljestrum
	研究会	1995/2/21	Current Trends in Women's Studies in India: Gender,Development and Empowerment/	Malavika Karlekar ほか
	研究会	1995/3/1	Women, Education, and Development in Bangladesh	Saleha Begum
1995 (H7)	研究会	1995/4/13	日本の女性国会議員—その形成と構造	大海篤子
	研究会	1995/5/12	姉さん女房の社会学	Ursula Richter
	研究会	1995/6/16	女性と政治	Elic Plutzer
	研究会	1995/7/3	遺伝子とジェンダー	Joan Hideko Fujimura
	研究会	1995/9/18	アメリカのフェミニスト法理論の現在	Frances Olsen
	研究会	1995/10/13	社会主義フェミニズムの観点から見る『雁』	玉枝 Prindle
	研究会	1995/11/24	エコロジーとフェミニズム	山本良一
	シンポジウム	1995/12/2	湯浅年子メモリアルカンファレンス—エレーヌ・ランジュヴェン・ジョリオをむかえて	Hélène Langevin-Joliot
	研究会	1995/12/19	The place of women in Egyptian Society	Samia Khedr Saleh
	研究会	1996/2/14	ネパールにおける Management と WID の視点	福土恵理香
	研究会/シンポジウム	1996/3/19	日本の学問研究とジェンダー	館かおる

【資料】⑦国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学グローバル女性リーダー育成研究機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、グローバル女性リーダー育成研究機構に附属する研究所として、ジェンダーに関する総合的、国際的な研究及び調査を行うとともに、ジェンダー研究者の育成に資することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) ジェンダーに関する国際的研究及び調査
- (2) ジェンダー研究に関する教育研修
- (3) ジェンダー研究に関する文献・資料の収集および整理
- (4) ジェンダー研究に関する情報の提供
- (5) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所に、次に掲げる職員を置く。

- (1) 研究所長
- (2) 教員
- (3) 特別招聘教授
- (4) 研究員
- (5) その他学長が必要と認めた職員

2 研究所に、次に掲げる職員を置くことができる。

- (1) 特任教員
- (2) 客員研究員
- (3) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。

3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第6条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、基幹研究院に所属する教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第7条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第8条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第9条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、ジェンダー研究所運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

(2) 第4条第1項第2号に掲げる教員

(3) 第4条第1項第3号に掲げる特別招聘教授

(4) 第4条第1項第4号に掲げる研究員

(5) その他グローバル女性リーダー育成研究機構長が必要と認めた者

3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。

4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。

5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

6 本条に定めるほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第10条 研究所の事務は、企画戦略課が行う。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

2 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究センター規則は、廃止する。

【資料】⑧国立大学法人お茶の水女子大学特別招聘教授に関する規則

(平成 27 年 3 月 25 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則(以下「職員就業規則」という。)第 4 条第 5 項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学(以下「本学」という。)のグローバル女性リーダー育成研究機構に置く研究所において雇用する特別招聘教授に関し必要な事項を定める。

(定義)

第 2 条 この規則において「特別招聘教授」とは、国際的に著名な研究者又は顕著な業績を有する研究者で、グローバルな視野から本学の教育研究活動の一層の推進及び活性化を図ることを目的として、本学が常勤の教員として採用する者をいう。

(選考)

第 3 条 特別招聘教授の選考は、教員人事会議の議を経て、学長が行う。ただし選考に係る審査は、基幹研究院長に付託するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、学長の戦略的人事による選考は、役員会の議を経て、学長が行うものとする。

3 前 2 項の選考にあたっては、国立大学法人お茶の水女子大学教員選考基準第 1 条の規定を準用する。

(定年・雇用期間)

第 4 条 特別招聘教授の定年は 65 歳とし、当該定年に達した日以降における最初の 3 月 31 日(以下「定年退職日」という。)に退職するものとする。ただし、学長が特に必要があると認める職員については、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、学長が必要と認める場合には、5 年以内の期間を定めて雇用することができる。

(給与及び退職手当)

第 5 条 特別招聘教授の給与は、国立大学法人お茶の水女子大学職員就業規則第 4 条第 4 項の規定に基づき年俸制を適用して雇用する教員の就業に関する規則(以下「年俸制適用教員の就業に関する規則」という。)第 2 条第 1 号の規定に基づき採用された教員に関する同規則第 6 条から第 13 条の規定を適用する。

2 特別招聘教授の退職手当は支給しない。

(赴任及び帰国旅費)

第 6 条 特別招聘教授には、赴任及び帰国のための旅費を支給する。ただし、帰国のための旅費は退職後 3 か月以内に本邦を出発する場合に限り支給し、一時帰国のための旅費は学長が必要と認める場合に支給するものとする。

(就業等)

第 7 条 特別招聘教授の就業に関し、この規則に定めのない事項については、職員就業規則の定めるところによる。

2 特別招聘教授の給与に関し、この規則に定めのない事項については、国立大学法人お茶の水女子大学職員給与規程の定めるところによる。

(雑則)

第 8 条 この規則に定めるもののほか、特別招聘教授に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

2 この規則の施行後最初に採用される特別招聘教授は、この規則に基づき選考されたものとみなす。

附 則(平成 27 年 10 月 23 日)

この規則は、平成 27 年 10 月 23 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 19 日)

この規則は、平成 28 年 2 月 19 日から施行する。

【資料】⑨『ジェンダー研究』編集方針・投稿規程

《編集方針》

1. 『ジェンダー研究』(以下、本誌)は、学際的・国際的なジェンダーに関する最新の研究成果を発信し、グローバルなジェンダー研究の発展に寄与する。
2. 本誌は、特集記事・投稿論文・書評からなる。
3. 本誌は特集記事を企画し、時宜にかなったもの、国際的な関心の高いもの、新領域を開拓するものなど、現在のジェンダー研究にとって重要であるテーマで、質の高い論文を掲載する。
4. 投稿論文は、国内外・学内外を問わず公募し、厳正な審査を経て掲載することで、質の高い学術論文の国内外への頒布を進める。
5. 書評は、国内外のジェンダーに関する書籍を厳選し、最先端の研究動向の紹介およびそれについての考察を加えた論評を行う。
6. 本誌の刊行により、国内外・学内外のジェンダーに関する研究の発展を促進し、グローバルかつ有機的な研究交流の構築を目指す。そして、国立大学法人として、男女共同参画社会の実現に貢献する等の、社会的要請にも応える。

《投稿規程》

- 1 投稿する論文は、女性学・ジェンダー研究に関する、学術的研究に寄与するものとする。
- 2 投稿者は、国内外を問わず、学際的に女性学・ジェンダーに関する研究に従事する者とする。
- 3 投稿する論文は、未発表の論文に限る。
- 4 論文執筆における使用言語は、原則として日本語または英語とする。日本語／英語以外の言語による投稿に関しては、編集委員会において検討する。
- 5 投稿論文は原則として、
日本語の論文は、注・図表・参考文献を含めて20,000字以内
英語の論文は、注・図表・参考文献を含めて8,000ワード以内
- 6 論文の提出時には、本文・図表・参考文献のほかに、以下についても提出すること。
6-1 表紙。論文タイトル(副題も含む)と投稿者氏名・所属を、日本語と英語とで記す。
(タイトル等の英語表記は、確認のうえ編集事務局で変更する場合もある。)
6-2 日本語要旨。400字以内。
6-3 英語要旨。200ワード以内。ネイティブチェック済のもの。
6-4 キーワード。日本語・英語ともに5語以内で、それぞれの要旨の後に記載する。

- 7 投稿論文は、ジェンダー研究所ウェブサイト上の、以下のいずれかの投稿フォームより、必要事項を入力したうえで、メール添付にて送付すること。

日本語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72482244933459>

英語投稿フォーム

<https://form.jotform.me/72488720633461>

- 8 本文と要旨などのテキストのデータは Word と PDF のファイルにし、図、表のデータは Word または Excel と PDF にし、写真は JPEG と PDF のファイルにして提出すること。
- 9 他の文献等から図、表、写真などの転載を行う場合は、原則として投稿者が自らの責任において必要な手続きを行う。その際の費用に関しては投稿者が負担する。
- 10 本文、引用文、参考文献、注については、別に定める＜『ジェンダー研究』執筆要項＞に従う。英語の投稿論文は Harvard Referencing System とする。
- 11 投稿論文の掲載の可否は、査読者による審査のうえ、編集委員会が決定する。
- 12 編集委員会は、査読者の審査にもとづき、投稿者に論文の修正を求めることがある。求められた投稿者は、速やかに論文を修正し、メールにて提出しなければならない。
- 13 投稿者による校正は原則 2 回までとする。
- 14 投稿後、投稿論文を取り下げる場合は、速やかに編集委員会に申し出ること。
- 15 原稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。ただし、図・表・写真などが多い場合には、執筆者による自己負担となることがある。
- 16 掲載論文の著作権はお茶の水女子大学ジェンダー研究所に帰属するものとする。転載を希望する場合には、編集委員会の許可を必要とする。

(2017 年 10 月 27 日改訂)

【資料】⑩ジェンダー研究所ウェブサイト プライバシー・ポリシー

1. 国立大学法人お茶の水女子大学ジェンダー研究所(以下、本研究所)ウェブサイトでは本研究所のイベント開催に際して、イベント参加申込者の個人情報(氏名等により特定の個人を識別できるもの)を、本ウェブページ上にて収集することがあります。
2. 収集した個人情報はイベント開催における会場手配や安全確保、配布資料作成の参考として利用するものであり、本研究所のイベント開催通知以外では利用することはありません。
3. 収集した個人情報の管理は、ウェブ担当者が漏洩、紛失、改竄等に対する安全対策を行うことで保護し、その責任は本研究所所長が最終的に負います。
4. 本研究所では、プライバシー・ポリシーを改定することがあります。改定する場合は、当ウェブサイトでお知らせします。

附 則

このプライバシー・ポリシーは、2015 年 7 月 1 日から施行します。